

「言語習得の前にまず人!」親子で成長中!

—世界に通じる力を育てる—NPO 法人「多言語広場 CELULAS のメルマガ」—第 66 号—

春ですね。薄着になるといきなり気になりだす体型...ウォーキングを始めてみました。

桜が満開のころは上ばかり見ていましたが、気が付くと足元には名前も知らない色とりどりの花が咲いています。花の名前を覚えながら、楽しく続けられたらいいなと思う今日この頃です。

さて、今回は幼い二人のお子さんと昨年の夏からセルラスの活動に参加している、有村さんの手記をご紹介します。

海外留学も経験された有村さんが、セルラスでの多言語活動や子供たちと自分の変化に、今まで体験したことのない新鮮な驚きを感じていらっしゃるようです。

ぜひ、ご一読ください。

【目次】

《1》『小さな娘たちといっしょに、私も成長できる!』

東京都杉並区在住 有村さん (家族構成：夫、長女4歳、次女1歳5ヵ月)

《2》 セルラス インフォメーション

《1》『小さな娘たちといっしょに、私も成長できる!』

東京都杉並区在住 有村さん (家族構成：夫、長女4歳、次女1歳5ヵ月)

【「言語」とではなく「人」と向き合う】

保育園の帰り道、何気なく目に留まったセルラス講演会のポスター。

英語教育に関心があった私は、子どもたちのためというよりは、自分のために聞きに行くことにしました。

理事長のお話の中で感銘を受けたのは、「言語習得の前にまず人!」というところでした。

英語教育を提供する日本の学校や企業で、「英語はコミュニケーションのツールである」とは謳っても、「英語よりも向かい合う人の方が大事」と言う教育機関は聞いたことがありません。

私は社会人になってからアメリカに2年留学しました。

クラスメートはアメリカ人とアジア人。自分以外に日本人がいなかったため、韓国人と台湾人の友人も多かったです。

国を超えて仲良くなれたのは、英語を話せたからではなく、その人の人柄に惹かれたからです。

そう考えると、相手のことを知るためにその人の国の言葉を学ぶというのは、文化を学ぶのと同じように自然なことのように思えました。

また言語を習得するには、言語を話す「必然性」が必要ということについて全く同感で、日本で英語習得が難しい一因に、この必然性がないことがあげられると考えていました。

ですからこの必然性をピアザでどのように作り出しているのか興味が湧き、オープンセルラスに参加することにしました。

【長女の「また来たい!」が決め手に】

その後、子どもたちを連れて二度オープンセルラスに参加しました。
入会の決め手となったのは長女の「また来たい!」の一言。
長女は大変慎重な性格で、初めての場所や人の前ではまず話しません。

オープンセルラスの時も子供たちのゲームの輪の中には入っていましたが、話したり参加したりしている様子はありませんでした。

ですから「何が楽しかったの?」と聞くと、「お姉さんたちがやさしくしてくれた」と答えました。
日頃は保育園と家の往復で、違う世代の人達と接する機会はありません。

お姉さんたちの姿を見て、「あんな風になりたい」と自分の未来の姿と重ね合わせることができたら素晴らしいと思いました。

また、大人の私でも新たな言語をどのくらい習得できるのだろうという興味も湧き、入会することにしました。

【入会後の娘たちの変化】

長女は1ヵ月間、ピアザで言葉を発することはありませんでした。
ところが1ヵ月後、ほかの子供たちのプレゼンテーションを見ていた時に突然、「私も何か言いたい」と私に耳打ちしたのです。

ご存知の通り、プレゼンテーションは誰かに強制されるものではありません。
ほかの子供たちが頑張る姿を目の当たりにし、内側から沸き起こる「何か言いたい」という気持ちに突き動かされた4歳の長女に、親として感動を覚えました。

これこそ本当の必然性なのでは?とも思えました。
私は「じゃあ何か言ってみようか」と答え、長女は私のあとについて英語で自己紹介をしました。

“Hi, I'm~.” たった二言、そしてとても小さな声でしたが、この出来事が彼女の中でブレイクスルーとなり、帰り際「今度は一人で言ってみる!」と、ドアで振り返り大きな声で“See you!”とにこやかに言った姿は今でも覚えています。

その後も毎回気分が乗るわけではありませんが、「次は〇〇語で自己紹介したい」とか「司会やりたい」とか、自ら楽しむようになりました。

また、家でも「シマウマは韓国語でなんて言うの?」とか「いま夜の国はどこ?」とか、それまでにはなかった視点で質問することも増え、驚くことが多いです。

次女は1歳になるまで人見知りが激しく、祖父母に会っても大泣きして私にしがみついていた。それがなぜか当初から、ピアザに行くと毎回リラックスした様子で、歩けるようになった今では上機嫌にパタパタと走り回り、色んなメンバーのところへ行ってはかわいがってもらっています。

ピアザには、心を開かせる不思議な空気があるのでしょうか。様々な世代の人たちに関わっている姿を見ると、彼女もまたピアザを通して成長させてもらっていると感じています。

言語に関しては多言語がどのくらい蓄積されているかわかりませんが、色々な言語の土台となる「耳」ができてるといいなと思っています。

【親の私にも発見や変化が!】

私もセルラスを通して多くの発見や変化がありました。所属するピアザでは子どもたちが大変頑張っていて、様々な活動に積極的に取り組んでいます。

それを見ると「大人の私も頑張らねば」と刺激を受け、次週のピアザに向けて集中してCDを聞いたり、何かプレゼンテーションすることはないかと話題を探したりするようになりました。

CDを聞いても、子どもたちのようには多言語の音が拾えず、もどかしい思いもしますが、子どもたちもまた聞こえない部分は、理事長のおっしゃる「メロディーとリズム」で自然と乗り切っていて、「そういう学び方もあるのだな」と、とても新鮮に感じました。

またスーパーピアザなどに参加すると、この活動を心から楽しんでいる人が子どもから大人まで大勢いることに大変刺激を受けます。そして、「言葉を学ぶのって楽しいのだな、人生を楽しむか楽しまないかは自分次第なのだな」と思うようになりました。

これまでにOne Day Tripや東京マラソンのボランティアに参加しましたが、大人でも自ら望めば未知の体験を楽しむ機会がセルラスにはたくさんあり、自分を成長させ続けることができると感じました。

入会してまだ一年未満ですが、セルラスは私たちにとって日々の生活を豊かにするスパイスのような役割を果たしてくれています。

子供たちと共通の体験や話題を持つことができ、家族の話題も深まりました。セルラスに出会えて本当によかったと思っています。これからどんな風に子どもたちや自分が成長していくのか楽しみです。

《2》 セルラス インフォメーション

◆ご意見、ご感想を!◆

前回 65 号では、東京マラソンの「チーム・ボランティア」
として選ばれて、それに初参加したメンバーの手記を載せました。
配信後に、元メキシコ大使館員のラウルさんから、こんなお便りをいただきました。

「こんにちは、これは素晴らしいかつやくですね、おめでとうございます。
手記は暖かい、セルラスの方々いるから安心、外国語のスキルアップとか良かった。
セルラスの皆様優しい心、好い絆になっています。僕も心のそこからセルラスを愛しています。
これからもよろしく願います」

ーラウル クリエール

今まで、感想を寄せていただいたことがあまりなかったので、スタッフ一同感激いたしました。
そういえばセルラスのメールマガジンには、読者との接点がなかったことにあらためて気づき、
返信の専用アドレスを今号から入れることにいたしました。
記事に対するご感想やセルラスに対するご意見、ご質問等がありましたら、ぜひお寄せください。
スタッフ一同心よりお待ちしております。

アドレスはこちら ⇒ kouhou@celulas.or.jp

◆セミナリオ開催◆

セミナリオとは、新年度にその年の活動の方向性と旬な話題を共有し、各地域のピアザからメンバーたちが
集う楽しいイベントです。

▼関東

4/15（日）午後 代々木の社

▼関西

4/22（日）午後 西宮市大学交流センター

お申し込み、お問い合わせは各地域のコーディネーターまたは、
本部事務局 03-5333-8202 info@celulas.or.jp までご連絡ください。

◆セルラスでは機関誌『CELULAS(セルラス)』を発行しています。

このメールマガジンと併せてセルラスの活動内容を楽しく紹介しています。

最新号 9 号では、「セルラスの目指す世界」について、当法人の理事長が書いております。

また特集「教えて『あなたの取り組み』」では、メンバーたちの多言語活動に取り組む中での発見が
たくさん掲載されています。ホームページでもご覧になれますので、ぜひご一読ください。

⇒ <http://www.celulas.or.jp/kikannshi.html>

.....
このメールマガジンは、セルラスの会員をはじめ、これまでセルラスが開催した講演会、
セミナーに参加されるなど、私たちの活動にご興味を寄せていただいた皆さんにお送りしています。
セルラスの多言語活動や異文化体験、楽しい交流の様子などを、より多くの皆さんに知っていただくために
発行しています。

日頃の私たちの活動やご家族で参加していただけるイベントや講演会などのお知らせを、
月2回の予定でお届けします。